

J C I 四国支部 2020年度事業報告

1. 支部幹部会

【第9回】(2020年度第1回)

日 時：2020年11月30日(月)15時00分～16時40分

場 所：香川県生コンクリート工業組合(Web会議)

出席者：支部長，副支部長，幹事7名，検査役，本部理事，報告者1名，事務局
(計13名)

【第10回】(2020年度第2回)

日 時：2021年1月12日(火)15時～17時

場 所：香川県生コンクリート工業組合(Web会議)

出席者：支部長，副支部長，幹事8名，検査役，本部理事，事務局
(計13名)

2. 支部執行委員会

【第8回】(2020年度第1回)

支部総会時の委員会が開催できなかった。そのため、2020年度開催は1回であった。

日 時：2021年1月25日(月)15時～17時15分

場 所：香川県生コンクリート工業組合(Web会議)

出席者：支部長，副支部長，幹事8名，執行委員7名，検査役，本部理事，報告者1名事
務局 (計21名)

3. 支部執行部候補者推薦委員会

【第5回】

日 時：2021年1月12日(火)14時30分～14時50分

場 所：香川県生コンクリート工業組合(Web会議)

出席者：委員長，委員4名，オブザーバー3名，事務局 (計9名)

4. 内部監査

日 時：2020年5月28日(木)

場 所：香川県生コンクリート工業組合

出席者：甲斐支部長，橋本副支部長，堀井検査役，古田(メールにて書面監査)

5. 支部総会

2020年4月15日(水)に開催予定であったが，新型コロナウイルスの影響により中止に

なった。

6. 研究委員会活動

- 1) 四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】【2020年度～2021年度】
委員長：島弘（高知工科大学）
(p6, 7)
- 2) 材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会
【2020年度～2021年度】
委員長：河合慶有（愛媛大学）
(p8～p11)
- 3) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会【常設委員会】
委員長：甲斐芳郎（J建築検査センター）・・・四国支部長担当
(p12, 13)

7. 講演会・講習会など

1) 特別講演会

2020年4月15日（水）に下記のテーマ、講演者で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止になった。

講演題目：(仮) 桐朋学園大学調布キャンパス1号館（建築学会賞）

講演者：向野聡彦（日建設計）

2) 講習会

・四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告①

2020年4月15日（水）に下記のテーマ、講演者で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止になった。

テーマ：「養生温度によるコンクリート強度の変化について」

講演者：山内良馬（愛媛県立東予高等学校教諭）

活動報告を支部HPに掲載（2020.12.04）

・四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告②

2020年4月15日（水）に下記のテーマ、講演者で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止になった。

テーマ：第13回コンクリート甲子園

講演者：尾寄秀典（香川県立多度津高校土木科教諭）

活動報告を支部 HP に掲載 (2020.12.04)

- ・コンクリートの品質向上を目指した CUS 利用普及のための技術研究委員会の成果報告会

日 時：2020 年 9 月 4 日（金）12:00 ～ 9 月 5 日（土）12:00

場 所：オンデマンド型オンライン形式

主 催：JCI 四国支部

共 催：土木学会四国支部

参加者数：61 名

- ・四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会の成果報告会（2020 年度には開催できなかった。）

2021 年度予定

日 時：2021 年 9 月～10 月（1 週間）

場 所：オンデマンド型のオンライン講習会

主 催：JCI 四国支部

- ・生コンセミナー i n 愛媛

日 時：2021 年 3 月 10 日（水）

場 所：東京第一ホテル松山

主 催：JCI 四国支部

共 催：愛媛県生コンクリート工業組合，全国生コンクリート工業組合連合会四国地区本部

参加者数：22 名

- ・コンクリート技術研修会

日 時：コロナ禍により中止

場 所：コロナ禍により中止

主 催：高知県コンクリート診断士会

後 援：JCI 四国支部

8. 見学会

2020 年度はコロナ禍により中止とした。

9. 本部関連行事

- 1) コンクリート診断士講習会

2020年度から講習はeラーニング

2) コンクリート診断士試験

日 時：2020年12月20日（日）

場 所：高松国際ホテル（高松市木太町 2191-1）

統括責任者：松島学（香川大学） 事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：1名

監督補助者：7名

事務補助者：香川県生コン組合2名

試験申込者数：185名（2019年の212名に対し-27名）

全国 合格率：16.3%（484/2973）欠席率：38.3%（1849/4822）

高松 合格率：10.6%（13/123）欠席率：33.5%（62/185）

3) コンクリート技士・主任技士試験

日 時：2020年11月29日（日）

場 所：香川大学創造工学部

統括責任者：吉田秀典（香川大学） 事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）

監督者：9名

監督補助者：24名

事務補助者：香川県生コン組合1名

試験申込者数：技士364名（2019年の350名に対し+14名）

主任158名（2019年の171名に対し-13名）

【技士】全国 合格率：30.7%（2501/8149）欠席率：20.1%（2054/10203）

高松 合格率：28.6%（90/315）欠席率：13.5%（49/364）

【主任】全国 合格率：13.7%（358/2612）欠席率：29.9%（1112/3724）

高松 合格率：7.2%（10/139）欠席率：12.0%（19/158）

10. ホームページ運営

JCI 四国支部のホームページを充実する。

11. 会員増強

JCI 会員の増強を図る。

年月	正会員（名）				団体会員			
	正会員	名誉会員	学生会員	計	第1種	第2種3級	第2種4級	計
平成17年8月	——	——	——	226	——	——	——	7
平成18年4月	——	——	——	234	——	——	——	15
平成19年4月	——	——	——	231	——	——	——	20
平成20年4月	——	——	——	238	——	——	——	21
平成21年4月	——	——	——	242	——	——	——	18
平成22年4月	——	——	——	251	——	——	——	18
平成23年4月	——	——	——	254	——	——	——	17
平成24年4月	234	——	14	248	——	——	——	16
平成25年4月	214	2	23	239	1	0	15	16
平成26年4月	211	3	19	233	1	0	15	16
平成27年4月	214	正会員に含む	23	237	1	0	17	18
平成28年4月	222	正会員に含む	21	243	1	0	17	18
平成29年4月	229	正会員に含む	13	242	1	0	15	16
平成30年4月	231	正会員に含む	25	256	1	0	16	17
平成31年4月	227	正会員に含む	27	254	1	1	16	18
2020年4月	241	正会員に含む	10	251	1	0	16	17

以上

J C I 四国支部 四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】 委員名簿

12名

県	区分	氏名	所 属
—	委員長	島 弘	高知工科大学工学部社会システム工学科
—	幹事長	古田 満広	香川県生コンクリート工業組合
徳島	委 員	橋本 和己	(有)松尾建材
	〃	三島 拓也	樫野石灰工業(株)
香川	〃	新居 宏美	香川県生コンクリート工業組合 技術試験センター
	〃	新居 佑将	香川県生コンクリート工業組合 技術試験センター
愛媛	〃	渡部 善弘	愛媛県生コンクリート工業組合 中予技術センター
	〃	成川 真悟	(株)キクノ
高知	〃	松本 明	(株)ビルドベース中芸生コンクリート
	〃	谷口 恵一	室戸菱光コンクリート (株)
	〃	宮澤 学	高知県生コンクリート工業組合 技術センター東部試験所
	〃	森澤 勝弘	高知県生コンクリート工業組合 技術センター東部試験所

「四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】」2020年度活動報告

1. 委員会の目的

JCI 四国支部では初めての試みとして平成 24 年に「四国の生コン技術力活性化委員会」を設置し、2年間の活動を経て生コン工場独自の課題に対して4県の技術者がそれぞれ実験を行い、論文に取り纏め JCI 年次大会 2014（高松）において発表しました。さらに、本委員会を継続し平成 26 年に第 2 期委員会を、平成 28 年に第 3 期委員会を、平成 30 年に第 4 期委員会を立ち上げそれぞれ 2 年間の活動を行いました。また、研究成果として JCI 年次大会 2016（博多）で 4 編、2018（神戸）で 3 編発表し、2020（広島）に 4 編投稿しすべて採択されました。さらに、1 期から 3 期委員会での研究成果の 1 部を展開し全国生コンクリート工業組合連合会主催の生コン技術大会においても発表することができました。このように、生コン業界自ら提案し JCI 年次大会などの全国規模の大会に投稿、発表することは全国でも稀なケースであり、四国の生コン業界の技術力活性化に一助になったと考えています。なお、技術力の活性化には活動の継続が最も重要と思い、第 5 期委員会を設置することになりました。趣旨はこれまでの委員会と同じく生コン工場の技術者が主体となって活動し、技術力の活性化を促すことです。

2. 委員会活動

本委員会（委員長：島 弘高知工科大学教授）は 2020 年度にスタートした。コロナ禍により 3 回開催の予定が 2 回であった。2021 年度は、3～4 回開催する方針であり、第 1 回目を 2021 年 7 月に予定している。主な協議内容等は以下のとおり。

【第 1 回委員会】

1. 日 時 令和 2 年 10 月 31 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場 所 高知県生コンクリート工業組合 技術センター東部試験所
3. 出席者 12 名
4. 協議内容
 - ・ 委員の自己紹介
 - ・ 2 年間の委員会活動計画および旅費規定が承認された。
 - ・ 4 県（グループ）の研究テーマ（案）が報告された。
 - ・ 次回の委員会まで研究テーマの見直しおよび詳細な実験計画を策定する。

【第 2 回委員会】

1. 日 時 令和 3 年 3 月 13 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場 所 愛媛県生コンクリート工業組合
3. 出席者 9 名（委員 8 名、オブザーバー 1 名）
4. 協議内容
 - ・ 愛媛グループの委員 1 名の変更が承認された。
 - ・ 各グループより詳細な実験計画または研究テーマの見直し（案）の報告があり、問題点等を抽出した。

以上

材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会 名簿

役職	氏名	所属
委員長	河合 慶有	愛媛大学大学院
副委員長	中川 裕之	四国総合研究所 土木技術部
委員	井上 博喜	シアテック
	上田 隆雄	徳島大学大学院
	氏家 勲	愛媛大学大学院
	角野 拓真	四国旅客鉄道 工務部工事課
	川谷 泰山	CORE技術研究所 高知営業所
	國土 新彦	四電技術コンサルタント 松山支店土木グループ
	近藤 拓也	高知工業高等専門学校
	高橋 昇一	住鋤物流 販売推進室
	日野 友	愛媛県 土木部土木管理局
	藤井 禎	清水建設 四国支店土木部
	横山 卓哉	キクノ 品質管理部
篠原 聖治	エイト日本技術開発 四国支社	

2020年度 JCI 四国 材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会
第1回 議事録

- 日時：2020年9月9日（水）14：00～17：00
- 場所：Zoomによるオンライン会議
- 出席者：河合委員長，中川副委員長，井上委員，角野委員，川谷委員，近藤委員，篠原委員，高橋委員，日野委員，藤井委員，横山委員
- 資料
 - ・資料 1-0：第1回委員会議事次第
 - ・資料 1-1：委員名簿（案）
 - ・資料 1-2：2017 土木学会四国支部技術研究発表会概要集（河合委員長）
 - ・資料 1-3：四国地区における銅スラグ細骨材の使用状況（高橋委員）
 - ・資料 1-4：フライアッシュと銅スラグの利用状況（横山委員）

1. 開会

河合委員長より，本委員会の趣旨について説明がなされ，2年間の活動内容や今後の進め方などについて議論を進めたいとの挨拶があった。また，成果報告会として講習会を実施できればとの提案があった。

2. 委員紹介

- ✓ 委員の自己紹介を行った。
- ✓ 委員会名簿（案）を承認した。

3. 話題提供

3.1 河合委員長（資料 1-2）

- ✓ 四国における産業副産物の有効利用を目的に，2014～2015年に実施された研究委員会「各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与に関する研究委員会報告書（愛媛大学：氏家委員長）」において，様々な混和材（銅スラグ CUS やフライアッシュ FA など）を対象として，コンクリートの高性能付与に関する研究報告がまとめられているとの説明があった。
- ✓ 2018～2019年に実施された研究委員会「コンクリートの品質向上を目指した CUS 利用普及のための技術研究委員会（徳島大学：橋本委員長）」において，四国内での CUS の利用普及を目的に，アンケート調査などを行い，海砂代替としての CUS 利用に関するガイドラインがまとめられていることが紹介された。
- ✓ 本委員会では，四国における産業副産物の地産地消による有効利用を推進する目的で，産業副産物（たとえば CUS や FA など）を用いて建造された供用中のコンクリート構

造物における使用状態やコンクリートの表層品質（健全度、不均質さ、鉄筋腐食抵抗性など）を調査・検討したいとの説明があった。

- ✓ 次に、JCI 四国 CUS 委員会において報告した愛媛大の研究内容の概要について説明があった。例えば、CUS30%の混合使用、さらに FA20%の混和により供試体レベルの実験では酸素透過の抑制により腐食電流密度が低減されている可能性が見られた。本研究結果を踏まえて、CUS や FA の使用による性能の向上効果（コンクリートの高耐久化）に関して実造物での情報（鉄筋腐食に限らず、種々の点検結果、健全度の経時変化など）を調査したいとの説明があった。
- ✓ また、産業副産物を使用したコンクリート造物の高性能化を評価するための非破壊検査方法も検討したいとの説明があった。
- ✓ 実造物の情報は、当該造物の建設に係わった建設業者、生コン会社が特定されるリスクも伴うため、本委員会でのどのような調査活動が可能か協議したいとの意見があった。

3.2 中川副委員長

- ✓ 上記 CUS 委員会で報告した「海砂を代替とした CUS 利用のためのガイドライン」の内容について説明があった。

3.3 高橋委員（資料 1-3）

- ✓ 高橋委員から所属する住鉱物流(株)における CUS の出荷状況の説明があった。特に、愛媛県（東予地区）を中心に展開し、土木・建築工事用生コン、コンクリート二次製品の細骨材として幅広く使用されているとの説明があった。

3.4 横山委員（資料 1-4）

- ✓ 横山委員から所属する(株)キクノにおける CUS および FA を使用したコンクリートの出荷状況について説明があった。
- ✓ 利用状況は、FA（細骨材置換 20～30kg/m³）、CUS（砂容積置換 10%）であり、両者とも砂置換で混合されている。
- ✓ キクノグループ全体の出荷量は、FA（約 3200t ※特需配合含む）、CUS（約 2800t、※西条工場実績）となっている。

話題提供後、本委員会を実施する検討テーマおよび実施方法等について、各委員からの意見交換を実施した。

- ✓ 日野委員：愛媛県内のコンクリート配合や造物等に関する情報は、紙ベースで 10 年分程度保管されている。ただし、何かの条件（例えば配合種類）で整理されていない。保管されている全資料から産業副産物が使用されている造物を調査することは不可能であるが、具体的に調査対象の造物が限定されれば、調査可能な場合もあると思われるとの説明があった。
- ✓ 横山委員：生コン工場から出荷されたコンクリート情報についても紙ベースであり、全体を調査することは難しいとの説明があった。CUS に関して、以前生産されていた

CUS1.2 は、細骨材における細粒分補填に有意であったが、現在は CUS2.5 のみとなっており、CUS の利点の一つが無くなったのではとの意見があった。

- ✓ 藤井委員：現在実施している工事でも CUS を使用しているが、同じ工事において CUS 無しの配合を用いたコンクリート構造物を建設していないので、比較対象がない。その結果、CUS 混合使用の生コンの良し悪しを把握できないとの意見があった。
- ✓ 篠原委員：コンクリート構造物の設計において、設計段階では、コンクリートの材料まで指定することは一般的に無いとの説明があった。
- ✓ 井上委員：以前、FA 有無による品質の違いを確認するために、試験施工としてコンクリート製品（FA 有無）を製造したことがあった。その製品がまだ保管されているかもしれないとの説明があった。
- ✓ 川谷委員：PC 橋梁においては、産業副産物の利用はまだ一般的な普及までされていないのが現状ではないかとの意見があった。
- ✓ 角野委員：JR 四国において、CUS や FA の使用有無はわからず、使用されていたとしても無筋コンクリートであろうとの説明があった。逆に、コンクリート供給側（横山委員）の方から JR 関連工事への出荷実績がわかれば、構造物を特定できると思われるとの意見があった。
- ✓ 中川委員：CUS を使用した実構造物における使用状態がどのようなであったかという観点からは、情報開示への制限が考えられるが、例えば、生コンクリート製造、コンクリート施工、管理者、設計者などの各々の立場から、さらなる CUS 使用における課題について意見を収集する方法なら、情報が集まるのではないかとの意見があった。
- ✓ 情報収集の方法としては、対象者に直接ヒアリングする方法が良いと思われるとの意見があった。
→愛媛県建設業協会にヒアリングしてみてもどうかとの意見があった。（日野委員）
- ✓ 近藤委員：本委員会において、調査方法については様々な切り口があるのでは無いかと思われ、今後さらに検討すれば良いのではとの意見があった。
- ✓ 中川副委員長：12 月に次回委員会を予定しているので、第 1 回委員会の議論を踏まえて、各委員それぞれの立場から、どのような調査方法が可能であるかを考えておいて欲しいとの説明があった。
- ✓ 河合委員長：CUS 提供元、生コン会社、施工会社、発注者のそれぞれから実際に産業副産物を使用して建造されたコンクリート構造物の使用状態や品質（鉄筋腐食抵抗性に限らず）に関する情報を収集するための調査方法を引き続き協議したいとの意見があった。また調査対象を絞って情報を収集することを想定して、次回委員会までに個別に相談させていただくので、対応してほしいとの依頼があった。

4. その他

次回委員会：12 月第 1 週を予定

以上

令和2年度 第1回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」 議事録

J C I 四 国 支 部
四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会

1. 日 時 令和2年12月12日(土) 15:15～16:35
2. 場 所 リモート会議
3. 出席者 幹事長：尾寄秀典
委 員：上岡義広，山内良馬，林和彦，堀井克章，近藤拓也 計6名
4. 配付資料
 - ①令和2年度 第1回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」出欠一覧
 - ②令和2年度「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」委員一覧
 - ③コンクリート教育モデル活動校一覧表(2006年～)
 - ④コンクリート関連企業への就職者数調査(平成27年～令和元年)
5. 議事
 - ・以下について審議し，次の結果を得た。
 - (1) 近況報告
 - ・年度に一度の開催であるため，出席された委員全員から恒例の近況報告が行われた。
 - ・今年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため，本研究委員会がリモートで行われることになり，各委員からも感染症拡大防止対策により取り巻く環境が大きく変化したことが多く報告された。
 - (2) コンクリート教育モデル活動校による活動の中間報告
 - ・今年度のモデル活動校は香川県立多度津高等学校であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため，年度始めの2ヶ月間が臨時休業となり，十分なコンクリート教育が見込めないため，研究委員会で審議し，今年度は支部からの支援を辞退することが承認された。それによって，今年度の中間報告は中止となった。
 - (3) 令和3年度コンクリート教育モデル活動校の審議・決定
 - ・(2)によって，令和3年度のモデル活動校についても審議し，令和2年度のモデル活動校である香川県立多度津高等学校がスライドする形で令和3年度のモデル活動校とすることが承認された。令和4年度からのモデル活動校も，1年ずつ4県のローテーションをスライドさせることが承認された。令和4年度は，ローテーションにより徳島県内の学校をモデル活動校として推薦していただくことを徳島県の委員に依頼した。
 - ・支援額については，さらに活動の充実を図る目的で，15万円を支部に要望することが承認された。
 - (4) 令和3年度 第14回コンクリート甲子園への支援について審議
 - ・令和2年度のコンクリート甲子園も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観

点から、今年度は中止することが決定し、審議の結果、支部からの支援を辞退することが承認された。

・令和 3 年度のコンクリート甲子園は、現在のところ開催する方向で模索していることから、支部に支援を要望することとし、承認された。また支援額は、大会の運営面での充実を図る目的で 10 万円を要望することが承認された。

(5) 「コンクリート関連企業への就職者数調査」結果報告

・本研究委員会の活動成果を検証する目的で、今年度も本調査を行った。今年度は令和元年度卒業者を加えて 5 ヶ年分のデータとなり、結果は合計 8 名と例年並みであった。例年どおりコンクリート関連企業に就職している学校もあれば、新しくコンクリート関連企業に就職している学校もあった。各委員からも報告をいただいた。

・聞き取りの中で企業の一部署にコンクリートを扱うポジションがある場合もあり、実際には数字より多くコンクリート関連企業に就職しているのではないかという意見もいただき、次年度はより深く聞き取りをお願いすることにした。高専では求人が好調で、学生も大手企業に興味を持ち就職していく傾向にある。一方でコンクリート関係の研究室を持つ高専では、専攻科の学生がコンクリートに興味を持ち、コンクリート関連企業に就職しているという意見もいただいた。また、技術士会やコンサルタント協会は出前授業を行っている効果が出ているのか、コンサルタント会社への就職が増えているという意見をいただき、学生・生徒への積極的なアプローチも大切であるということも見えてきた。今後、各県の生コンクリート工業組合や生コン企業等の協力を得て、学生・生徒への露出度を高めていく取り組みが重要ではないかという意見もいただいた。さらに、PC建設業協会等に働きかけて、教員でない人からの話を聞くことは学生・生徒にとって刺激になるのではないかという意見もいただいた。報告をいただく中で、各校ともインターンシップ、キャリア教育、現場見学会等、幅広く現場と接触する取り組みを行っているようであった。これをコンクリート分野に重点を置くことで学生・生徒にも興味を持ってもらえ、今後の就職者数に結びつくかもしれない。

(6) コンクリート教育に関する意見交換

・コロナ禍で、今年度の求人数への影響が出ているかという質問に対し、土木分野は好調であり、むしろ増加している学校もあった。ただ建築分野は、今年度は影響ないが、今後影響が出るかもしれないという心配も聞かれた。

(7) 次回委員会開催日の検討

・次回の委員会は、令和 3 年 12 月 4 日（土）香川県生コンクリート工業組合で開催することを仮決定した。しかし、次年度の状況次第では、今年度同様にリモート会議の可能性もあることを申し添えた。

(記録 尾寄秀典)

2020年度収支決算

(単位：円)

項 目	2020年度予算 (a)	2020年度決算 (b)	差 異 *	備 考
【 収 入 】				
1. 本 部 交 付 金	1,350,000	1,355,680	5,680	
2. コンクリート診断士講習会報酬金	0	0	0	2020年よりeラーニング
3. コンクリート診断士試験報酬金	0	174,000	174,000	185名
4. コンクリート技士試験報酬金	280,000	279,680	▲ 320	技士364名 主任158名
5. 見 学 会 収 入	20,000	0	▲ 20,000	見学会中止
6. 講 習 会 収 入	60,000	29,000	▲ 31,000	研究委員会成果報告書販売 (@1,000円)
7. 雑 収 入	5	10	5	利息10円
8. 懇 親 会 収 入	0	0	0	総会中止
合 計 (A)	1,710,005	1,838,370	128,365	
9. 前期繰越収支差額	302,133	302,133	0	
当期収入合計 (B)	2,012,138	2,140,503	128,365	
【 支 出 】				
10. 会 議 費				
1) 総会費	0	0	0	総会中止
2) 執行委員会費	120,000	11,000	109,000	支部執行委員会(1回)のWeb会議ツール使用料
3) 幹部会費	180,000	22,000	158,000	支部幹部会(2回)のWeb会議ツール使用料
小 計	300,000	33,000	267,000	
11. 事 業 費				
1) 特 別 講 演 会	0	0	0	総会中止
2) 見 学 会	120,000	0	120,000	見学会中止
3) 講習会・講演会	300,000	88,000	212,000	橋本研究委員会の成果報告会オンライン方式で実施 生コンセミナー i n 愛媛88,000
4) 広 報 費	50,000	50,000	0	HP維持経費
5) 研 究 委 員 会	750,000	168,100	581,900	活性化委員会150,440、河合委員会6,660 教育に関する委員会11,000(Web会議ツール使用料)
小 計	1,220,000	306,100	913,900	
12. 管 理 費				
1) 事 務 費	10,000	19,140	▲ 9,140	長 3 封筒3,000枚
2) 業 務 委 託 費	240,000	240,000	0	
3) 旅 費 ・ 交 通 費	10,000	0	10,000	内部監査メール審議, コンクリート甲子園中止
4) 雑 費	10,000	3,520	6,480	支払い手数料
小 計	270,000	262,660	7,340	
13. 通 信 費	90,000	44,996	23,820	
14. 予 備 費	0	0	0	
15. 未 払 い 金	0	0	0	
当期支出合計 (C)	1,880,000	646,756	1,212,060	
16. 当期収支差額(A-C)	▲ 169,995	1,191,614	—	
17. 次期繰越収支差額(B-C)	1,323,752	1,493,747	—	

(注) * 差異欄：収入項目 b-a, 支出項目 a-b

J C I 四国支部 2021年度事業計画

1. 支部幹部会

【第11回】(2021年度第1回)

日 時：2021年11月(上半期の事業報告と下半期の事業計画確認)

場 所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室(対面式)

【第12回】(2021年度第2回)

日 時：2022年1月中旬

(12月末までの収支決算の確認, 2022年度事業計画と事業予算の審議)

場 所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室(対面式)

2. 支部執行委員会

【第9回】(2021年度第1回)

日 時：2021年4月23日(金)15時~17時

(2020年度事業報告・収支決算報告, 2021年度事業計画・収支予算最終確認)

場 所：香川県生コンクリート工業組合(Web会議)

【第10回】(2021年度第2回)

日 時：2022年1月下旬~2月初旬

(次年度収支予算, 事業計画を2月中旬までに本部へ報告しなければならない。)

場 所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室(対面式)

3. 支部執行部候補者推薦委員会

【第6回】

日 時：2022年1月中旬(第12回支部幹部会と同日開催)

場 所：香川県生コンクリート工業組合 2F 会議室(対面式)

4. 内部監査

日 時：2021年4月20日(火)

場 所：書面監査

出席者：甲斐支部長, 橋本副支部長, 堀井検査役, 古田出納管理者

5. 支部総会

コロナ禍のため, 対面式の総会は開催しない。第9回支部執行委員会承認後に2020年度活動報告・収支決算および2021年度活動計画案・収支予算案等を総会資料としてHPへ掲載し活動内容を周知する。

6. 研究委員会活動

- 1) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会【常設委員会】
委員長：橋本親典（徳島大学）・・・四国支部長担当
- 2) 四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】【継続】
委員長：島弘（高知工科大学）
- 3) 材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会【継続】
委員長：河合慶有（愛媛大学）
- 4) 四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会（第2期目）【新規】
委員長：未定

7. 講演会・講習会など

- 1) 特別講演会
開催しない方針。
- 2) 講習会
 - ・四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告
2020年度は活動していないので報告会なし。
 - ・「四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会」の成果報告会
日 時：2021年9月～10月（1週間）
場 所：オンデマンド型のオンライン講習会
主 催：JCI 四国支部
本講習会開催を準備する過程で得られたオンライン講習会実施のノウハウを整理しマニュアルを整備するなど今後のリモート活用のための基本方針を策定する。
 - ・「四国の生コン技術力活性化委員会【第5期】」の成果報告会
日 時：未定
場 所：未定
主 催：JCI 四国支部
 - ・生コンセミナー i n 香川
日 時：未定
場 所：未定
主 催：香川県生コンクリート工業組合
共 催：全国生コンクリート工業組合連合会四国地区本部，JCI 四国支部

- ・コンクリート技術研修会
 - 日 時：未定
 - 場 所：未定
 - 主 催：高知県コンクリート診断士会
 - 後 援：JCI 四国支部

8. 見学会

- 日 時：2021年10～11月
- 場 所：未定

9. 本部関連行事

1) コンクリート診断士講習会

2020年度から講習はeラーニング

2) コンクリート診断士試験

- 日 時：2021年10月31日（日）
- 場 所：高松国際ホテル（高松市木太町 2191-1）
- 統括責任者：松島学（香川大学） 事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）
- 監督者：1名（昨年：1名）
- 監督補助者：7名（昨年：香川大学7名）
- 事務補助者：香川県生コン組合2名

3) コンクリート技士・主任技士試験

- 日 時：2021年11月28日（日）
- 場 所：香川大学創造工学部
- 統括責任者：吉田秀典（香川大学） 事務責任者：古田満広（香川県生コン組合）
- 監督者：9名（昨年：香川大学9名）
- 監督補助者：24名（昨年：香川大学24名）
- 事務補助者：香川県生コン組合1名

10. ホームページ運営

JCI 四国支部のホームページを充実する。

11. 会員増強

JCI 会員の増強を図る。

以上

2021年度収支予算

(単位：円)

項 目	2021年度予算	2020年度決算	差 異	予 算 内 訳
【 収 入 】				
1. 本 部 交 付 金	2,057,840	1,355,680	702,160	支部交付金の算出方法が変更になった
2. コンクリート診断士講習会報酬金	0	0	0	2020年度よりeラーニングのため受付等の業務なし
3. コンクリート診断士試験報酬金	180,000	174,000	6,000	前年度実績とほぼ同額
4. コンクリート技士試験報酬金	280,000	279,680	320	前年度実績とほぼ同額
5. 見 学 会 収 入	20,000	0	20,000	バス代 (@1,000円×20名)
6. 講 習 会 収 入	50,000	29,000	21,000	林委員会・活性化委員会成果報告書販売 (@1,000円×50冊)
7. 雑 収 入	10	10	0	
8. 懇 親 会 収 入	0	0	0	総会開催しない方針
合 計	2,587,850	1,838,370	749,480	
9. 前期繰越収支差額	1,493,747	302,133	1,191,614	
当期収入合計	4,081,597	2,140,503	1,941,094	
【 支 出 】			0	
10. 会 議 費			0	
1) 総 会 費	0	0	0	総会開催しない方針
2) 執行委員会費	161,000	11,000	150,000	Web会議ツール使用料(1回), 支部執行委員会(1回)の交通費等
3) 幹 事 会 費	22,000	22,000	0	Web会議ツール使用料(2回)
小 計	183,000	33,000	150,000	
11. 事 業 費			0	
1) 特 別 講 演 会	0	0	0	総会開催しない方針
2) 見 学 会	120,000	0	120,000	バス使用。参加者障害保険料
3) 講習会・講演会	200,000	88,000	112,000	生コンセミナーin香川共催費50,000円, 活性化委員会成果報告会100,000円 林委員会成果報告書作成費50,000円
4) 広 報 費	50,000	50,000	0	HP維持経費
5) 研 究 委 員 会	1,443,000	168,100	1,274,900	継続委員会250,000円/件×2件, 教育に関する委員会350,000円 新規委員会1件250,000円, 前年度委員会費戻し(活性化99,000円, 河合244,000円)
6) リモート関係調査費	300,000	0	300,000	林委員会のオンライン講習会(リモート実現調査含む)
小 計	2,113,000	306,100	1,806,900	
12. 管 理 費			0	
1) 事 務 費	10,000	19,140	▲ 9,140	封筒作製等の予備費
2) 業 務 委 託 費	240,000	240,000	0	20,000円×12か月
3) 旅 費 ・ 交 通 費	15,000	0	15,000	支部長, 検査役の会計監査時の旅費
4) 雑 費	10,000	3,520	6,480	支払い手数料
小 計	275,000	262,660	12,340	
13. 通 信 費	80,000	44,996	35,004	前年度実績より若干増額(2020年度は総会開催案内なし)
14. 予 備 費			0	
15. 未 払 い 金			0	
当期支出合計	2,651,000	646,756	2,004,244	
16. 当期収支差額	▲ 63,150	1,191,614	▲ 1,254,764	
17. 次期繰越収支差額	1,430,597	1,493,747	▲ 63,150	